

山 嵐 勝 名 跡 史

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報

二
二
一〇

史跡名勝嵐山

2002年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

山嵐勝名跡史

2002年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平米から、数千平米におよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび公共下水道工事に伴います史跡名勝嵐山の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気付きのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます次第です。

平成14年9月

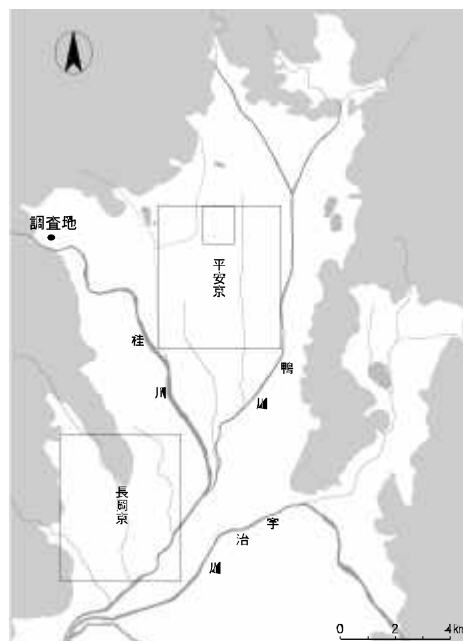
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 史跡名勝嵐山
- 2 調査地点所在地 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3 -33、 3 -42
- 3 委託者及び承諾者 京都市 代表者 京都市上下水道事業管理者 吉村憲次
- 4 調査期間 2002年 8 月 5 日～2002年 8 月12日
- 5 調査面積 16m²
- 6 調査担当職員 菅田 薫・吉本健吾
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1：2,500）「嵐山」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度（座標および標高は、京都市遺跡測量基準点を使用した）
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 挿図の土器類・石製品に通し番号を付けた。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 作成担当職員 菅田 薫・吉本健吾

（調査地点図）



目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	2
(1) 基本層序	2
(2) 1トレンチ	2
(3) 2トレンチ	2
(4) 3トレンチ	3
(5) 4トレンチ	3
3. 遺 物	3
4. ま と め	5

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1 調査前全景（北から）
		2 調査状況
図版 2	遺 構	2トレンチ石組み溝SD 2（西から）
図版 3	遺 構	1 1トレンチ西半（北東から）
		2 1トレンチ東半（西から）
		3 3トレンチ西半（北東から）
		4 4トレンチ東半（西から）

挿 図 目 次

図 1	調査区配置図（1：200）	1
図 2	調査位置図（1：2,500）	1
図 3	1トレンチ北壁断面図（1：40）	2
図 4	2トレンチSD 2実測図（1：40）	3
図 5	2トレンチ出土軒平瓦拓影・実測図（1：3）	4
図 6	2トレンチ出土軒平瓦	4

図7	2トレンチ出土石臼実測図(1:4)	4
図8	2トレンチ出土石臼	4
図9	「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」	6

表 目 次

表1	遺構概要表	3
表2	遺物概要表	5

史跡名勝嵐山

1. 調査経過

調査地は、雨水の排水を目的とした公共下水道の立坑部分で、本体工事に先立つ埋設管確認の試験掘削に伴い発掘調査を実施した。対象地は道路交差点近くにあたり、夜間の車両通行の確保のため、調査終了後路面復旧を行わなければならないことから、1日1ヶ所のトレンチに限って調査を行った。調査は、ほぼ1m×4mのトレンチを南北方向に1m間隔で4ヶ所設定した。また、各トレンチは軽車両・人の通行を確保しなければならないことから、東西に分割して調査を実施している。

8月5日から8月8日まで現場調査を行い、8月12日に調査基準点測量を実施し終了した。

調査の結果、中世とみられる石組みの溝を検出した。

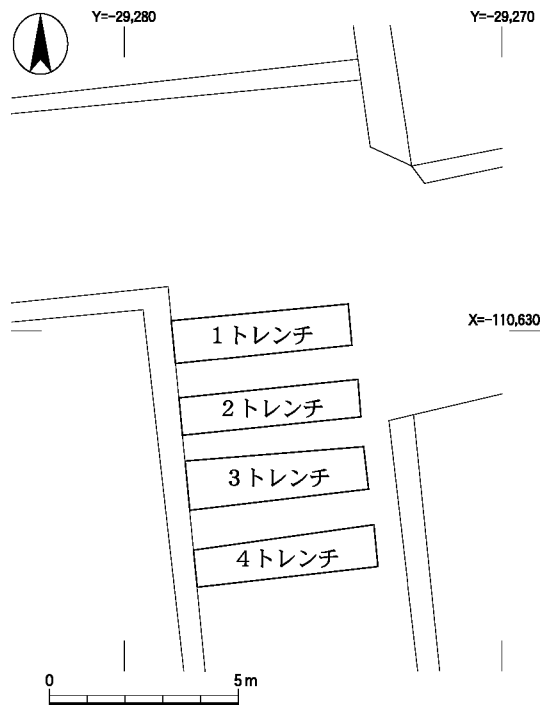


図1 調査区配置図(1:200)

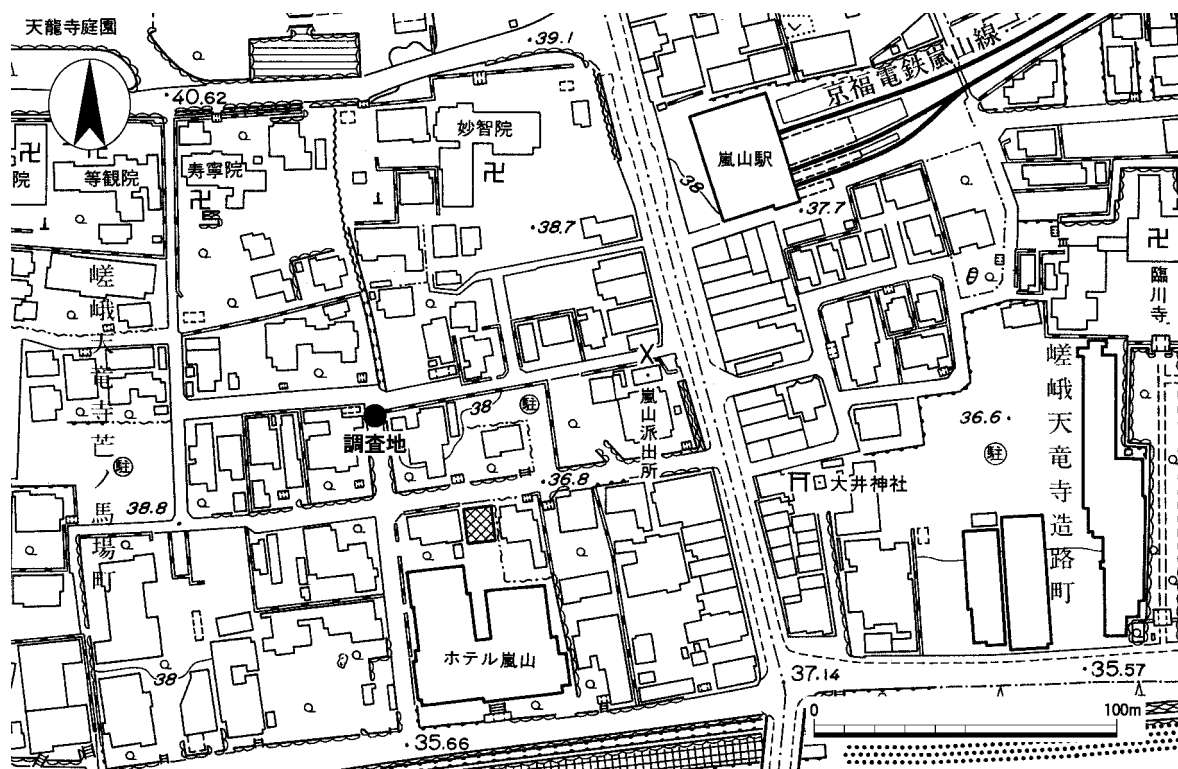


図2 調査位置図(1:2,500)

2. 遺 構

(1) 基本層序

調査地の基本層序は、2トレンチを除きアスファルトおよび砕石層下に、第1層10YR4/3にぶい黄褐色砂泥層(炭・土師器微片含む)、第2層10YR3/3暗褐色砂泥層(土師器微片含む)、第3層7.5YR4/3褐色砂泥(土師器含む)、第4層10YR4/6褐色混礫泥土層で、第4層からは遺物の出土がない。

(2) 1トレンチ

アスファルト・砕石層直下約30cmで上記の基本層序になる。トレンチ西側約1mは水道及びガス埋設管掘形がGL-120cm以上の深さまであり、またトレンチ中央部は下水管の掘形で攪乱される。これは、2トレンチから4トレンチまで同様である。後世の攪乱と分割して調査を実施したため面的に遺構の確認は不可能であったが、北壁の断面観察で、第3層を切り込むPitを確認した。

Pit 1 北壁で確認した。幅25cm、深さ45cmあり、埋土は10YR2/2黒褐色泥砂層で、遺物の出土はない。トレンチ内では対応する他のPitは検出できなかった。

(3) 2トレンチ

アスファルト・砕石直下には1トレンチと同じにぶい黄褐色砂泥層が約10cmの厚さで認められたが、その下層は10YR3/4暗褐色砂泥層で礫を多量に含む層になり、一見すると地山と見まがう層であるが、礫とともに多くの瓦が出土する。その下層でSD2を検出した。

SD2 GL-70cmで立石状の自然石を検出。その石の下方から東西方向に並ぶとみられる人頭大の石の並びを検出した。石は並列して4石分を確認し、石組みの溝であることが明らかとなった。東側は下水管の掘形など後世の攪乱により痕跡を残さないが、西側はガス・水道の埋設管掘

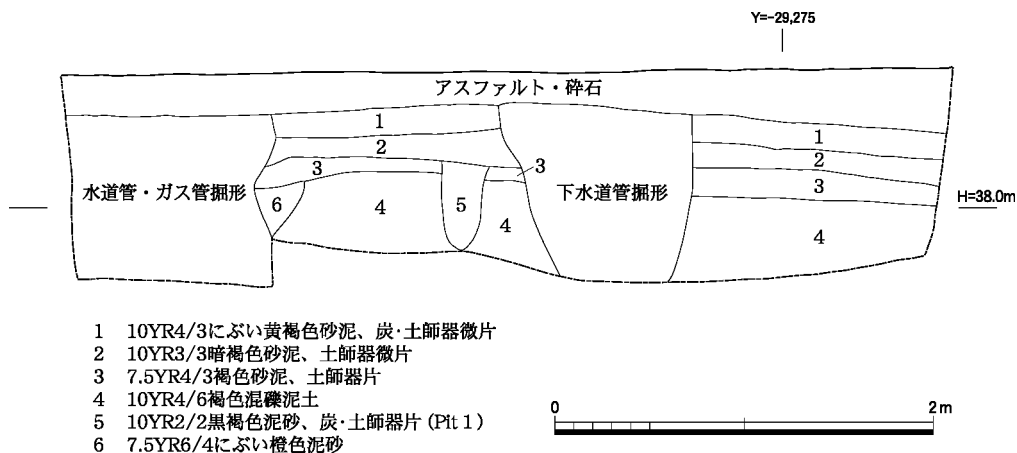
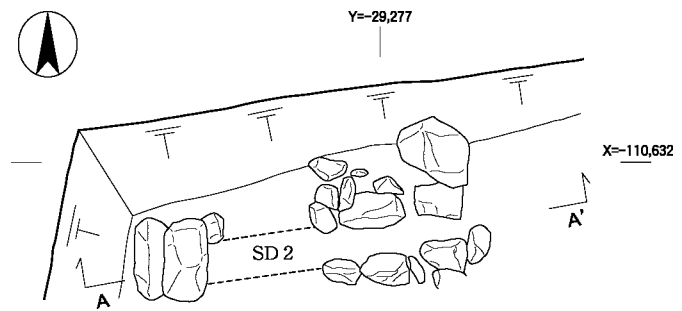


図3 1トレンチ北壁断面図(1:40)

形の直下から蓋石をかぶせたと思われる状態で2石分を検出し、延べ約2mにわたり溝を検出した。西側で蓋石をかぶせていることから暗渠とみられる。溝内からは土師器の小片1点が出土している。



(4) 3 トレンチ

幅1mのトレンチ中央部にガス引き込み管が東西に埋設されており、面的な調査はできなかった。北断面では2トレンチで検出した溝の堆積土である暗褐色砂泥層を第1層直下で確認するが、南壁断面は1トレンチと同じ堆積をしており、GL - 40cmで地山層になる。第3層を切り込むPitを南断面で検出している。

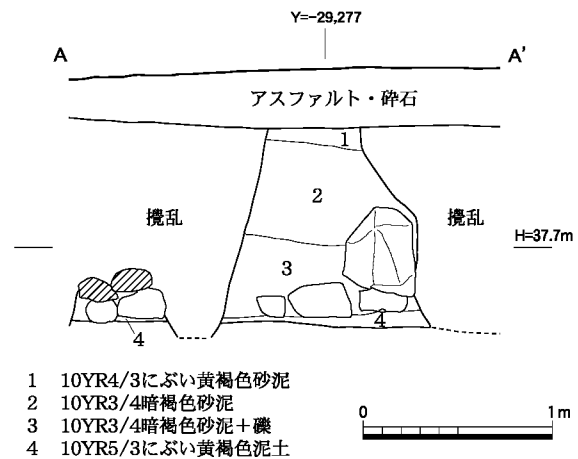


図4 2トレンチSD2実測図(1:40)

Pit 3 第2層直下、第3層を切り込み成立している。幅・深さともに約44cmを測る。埋土は10YR2/2黒褐色砂泥層で、少量の炭・焼土を含む。遺物の出土はない。

表1 遺構概要表

時期	遺構
中世	石組み溝
不明	Pit

(5) 4 トレンチ

1・3トレンチとほぼ同じ層厚で同じ堆積土が認められた。このトレンチのみ面的に調査を行うことができたが、遺構の検出はなかった。

3. 遺物

遺物は1・3・4トレンチで認められたにぶい黄褐色砂泥層、暗褐色砂泥層、褐色砂泥層から土師器小片が少量出土しており、2トレンチSD2の埋土上層であるにぶい黄褐色混礫砂泥層から多くの遺物が出土している。その内容は土師器皿、陶器拵鉢、瓦器鍋、石臼、瓦類(埴・平瓦・丸瓦・軒平瓦)などである。

軒平瓦(図5・6-1) 軒平瓦は2トレンチSD2上面から出土している。桃山時代から江戸時代初期とみられる唐草文軒平瓦である。

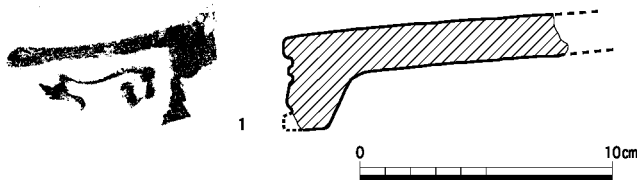


図5 2トレンチ出土軒平瓦拓影・実測図(1:3)



図6 2トレンチ出土軒平瓦

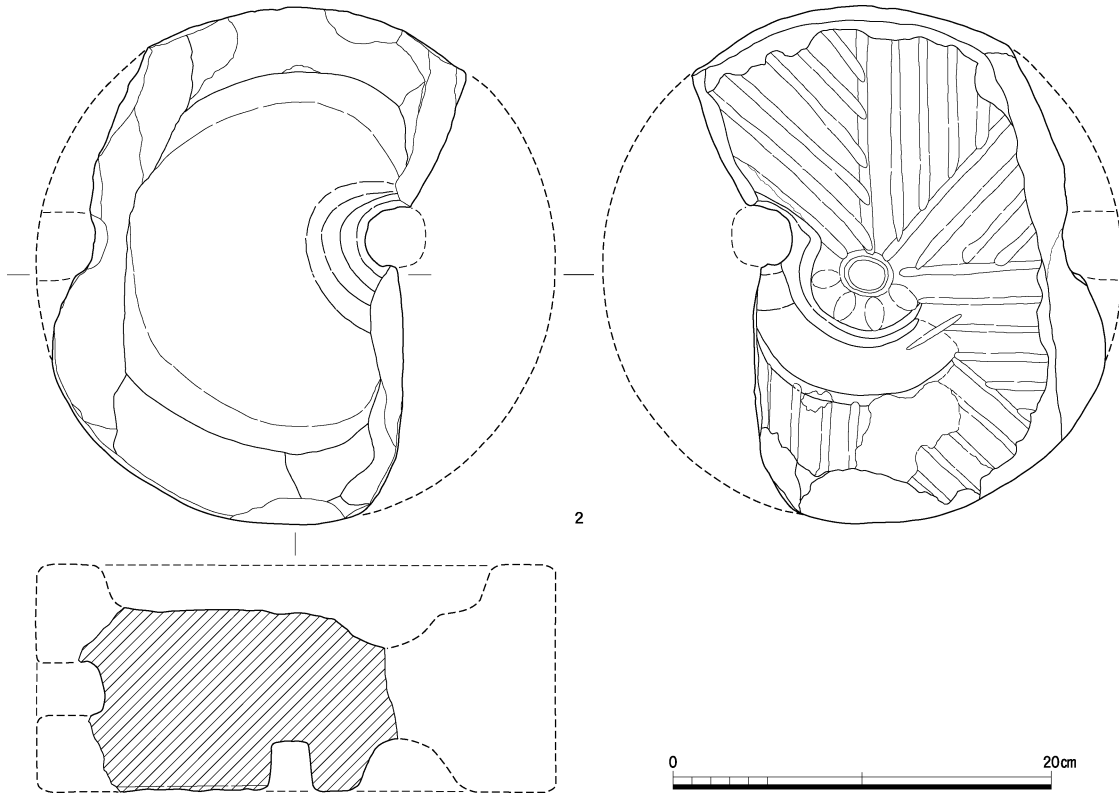


図7 2トレンチ出土石臼実測図(1:4)



図8 2トレンチ出土石臼

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
江戸時代初期	軒平瓦		軒平瓦1点		
室町時代	土師器、陶器、瓦類、石臼		石臼1点		
計		3箱	2点(1箱)	2箱	0箱

石臼(図7・8-2) 上臼1/2の破片で復元径26.5cm、厚さ12.4cmを測り、石材は雲母を多量に含む花崗岩である。また二次的に火を受けている。上縁幅3.5cm、くぼみは復元径19.5cm、深さは約3.5cmある。供給口は中心から1/3程の外側に位置し、径3.2cmの坑が穿たれる。台座文様は剥脱しており、一辺3.0cmの方形の挽き木坑が穿たれている。臼面は軸穴を中心に八分画の目が施される。軸穴は中心に穿たれ径1.8cm、深さ3.1cmある。この軸穴を巡るように供給口から幅4cm程の浅い溝がある。臼面の「ふくみ」はなく平坦にすり合わせ部まで仕上げている。

4.まとめ

道路交差点、路面復旧等制約が多い中の調査で、立坑全体の調査は適わなかったが、石組み溝1条、Pit2基を検出する成果を得ることができた。

道路面でのレベル差は、1トレンチと4トレンチで30cmの比高差がある。また、1～4トレンチまで、ほぼ同じ層厚で同じ層が堆積しており、現道路と同じ傾斜で旧地形を推定することができる。調査地は「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」¹⁾などの古絵図から、天龍寺から旧渡月橋への道路敷にあたるとみられるが、堆積層からは路面にあたる層は検出していない。石組み溝は、蓋石があることから暗渠とみられるが、旧路面に伴う遺構か、他の施設に伴う区画溝かは今回の調査範囲の中では確定することはできなかった。

石組み溝SD2は、桃山時代から江戸時代初期に廃絶。Pit2基は、壁面確認で出土遺物もないため時期は不明である。堆積層は、第1層にぶい黄褐色砂泥層が江戸時代以降、第2・3層は出土遺物からは不明であるが、広域立会調査での当該地周辺の成果では室町時代の包含層が認められており、その時期にあたとみられる。

出土遺物の中では石臼に注目できる。軸穴と供給口が別に穿たれていること、臼面の供給口から軸穴に沿う様に溝が彫られ、「ふくみ」の代わりをしていると推定できることなど、これまでに類例のない形態である。

註

- 1) 東京大学史料編纂所編「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」『日本荘園絵図聚影 二 近畿 一』(財)東京大学出版会 1992年

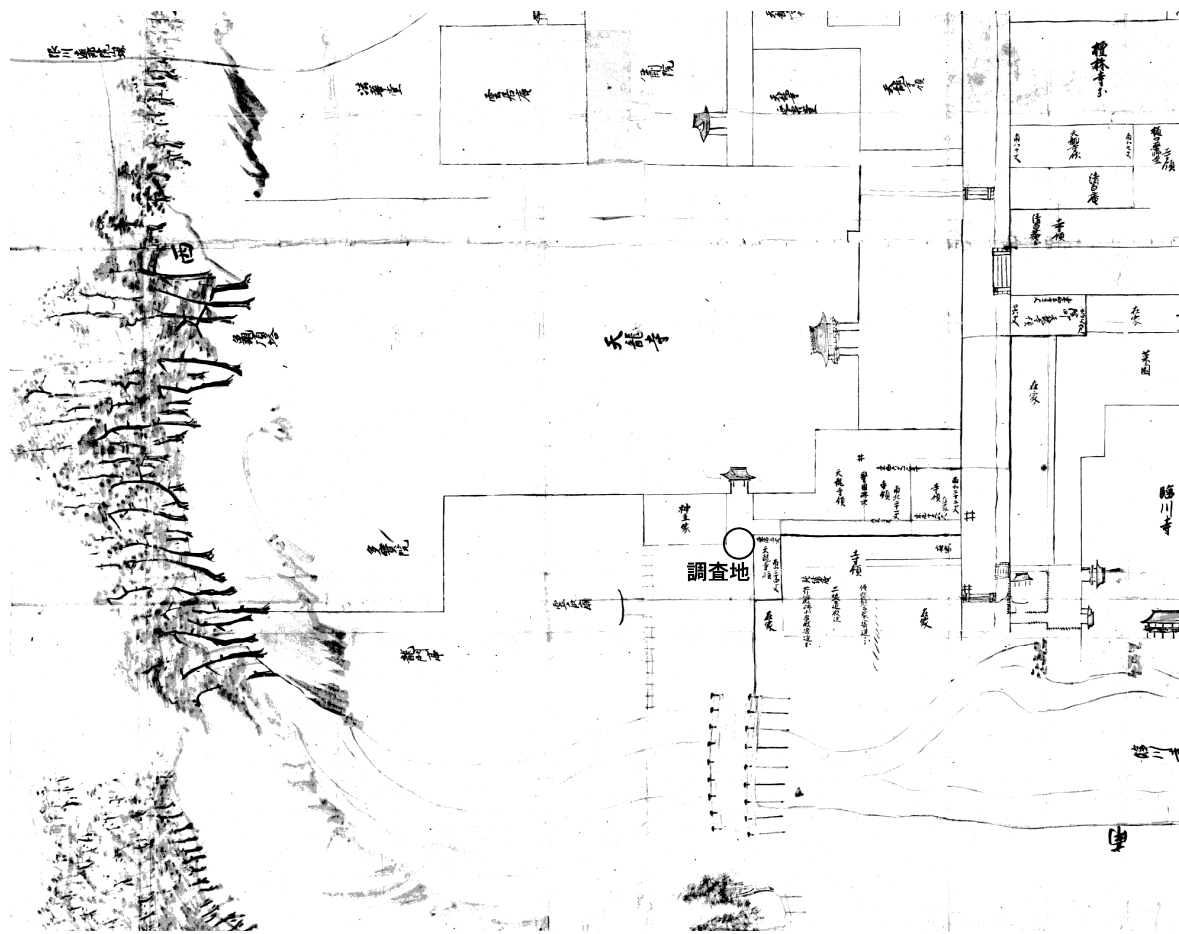


図9 「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」(東京大学史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』より転載)

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきめいしょうあらしやま							
書名	史跡名勝嵐山							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2002-10							
編集者名	菅田 薫・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2002年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせきめいしょうあらしやま 史跡名勝嵐山	きょうとしうきょうく 京都市右京区 さがてんりゅうじ 嵯峨天龍寺 すすきのばばちよう 芒ノ馬場町 3-33、3-42	26100	A709	35度 00分 08秒	135度 40分 45秒	2002年8月 5日～2002 年8月12日	16m ²	公共下水道 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡名勝嵐山	史跡 名勝	室町時代	石組み溝	土師器、陶器、瓦類、 石臼				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-10

史跡名勝嵐山

発行日 2002年9月30日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961